

平成22年度 大阪市立天王寺中学校

内部評価書

内部評価書の記号について

◎達成状況の A, B+, B-, C+, C-, D について

教育指導計画の取組内容（指標）の各項目について、事前に教職員が

A : 十分に達成できている(4点)	B : おおむね達成できている(3点)
C : どちらかというと達成できていない(2点)	D : ほとんど達成できていない(1点)

の4段階で判定をしました。

その得点を集計し、平均点を求め、その平均点によって

右のように6段階にわけたものが、

達成状況の各項目の A~D になります。

次に各担当が、その A~Dの判定を参考にして

全体的な達成状況（右側の A~D）をつけました。

A = (3.250~4.000)

B+ = (2.875~3.249)

B- = (2.500~2.874)

C+ = (2.125~2.499)

C- = (1.750~2.124)

D = (1.000~1.749)

◎評価の表の A+B, C+D, E について

- ・学校診断アンケートを、生徒・保護者・教職員に回答してもらう

A : よく当てはまる	B : だいたい当てはまる	C : あまり当てはまらない
D : 全く当てはまらない	E : わからない	

その A+B が肯定的なご意見、C+D が否定的なご意見と考え、それぞれの割合（%）を数値で表しました。

◎評価の表の「評価」について

- ・左側の ㉠~㉤ はA+Bの値によって
右のように ㉠~㉤ の4段階に分類した
ものを記入してあります。
- ・左側の ㉠~㉤ をもとに、右側の
総合的な ㉠~㉤ を記入しています。

80%以上：㉠評価

60%以上：㉡評価

40%以上：㉢評価

40%未満：㉤評価

平成22年度 大阪市立天王寺中学校 内部評価書（項目別）

大阪市立天王寺中学校長 豊岡 修

1 学校運営

目 標	取 組 内 容 (指標)	達成状況	
「豊かな心」と「学習意欲」を育み、基本的な生活習慣を身につかせ、たくましさ自立心を養う	①校内研修を充実させ、指導法の改善や指導力の向上に努め、「確かな学力」の育成を図る。	A	A
	②基本的な生活習慣や心身の健康を基盤に、学校行事や奉仕活動、体験活動を通して「思いやる心」や「感動する心」「感謝する心」を育てる。	A	
	③国際交流活動を通して国際理解教育を推進し、互いの違いを認め合い、個性を尊重し合う集団を育てる。	A	
	④家庭との連携を通して子ども達の理解を深めるとともに、地域との連携を通して学習環境を整え、一人一人を大切に教育を推進する。	A	

評価

項目	取組内容（評価基準）	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善方法	外部評価
①	学校での生活は楽しい	生 徒	86.3	12.7	1.0	Ⓐ	Ⓐ	
	子どもは学校生活が楽しいと言っている	保護者	82.8	14.1	3.2	Ⓐ		
	学校の教育目標や教育方針は、生徒の実態や当面する教育課題に即応している	教職員	100	0	0	Ⓐ		
②	校長先生の話は分かりやすい	生 徒	66.2	28.9	4.9	Ⓑ	Ⓑ	教育目標等の情報発信の見直し
	学校は、教育目標や教育方針を分かりやすく伝えている	保護者	69.4	23.1	7.4	Ⓑ		
	校長は、教育目標や教育方針を教職員に分かりやすく伝えている	教職員	100	0	0	Ⓐ		
③	学年集会や学級会での話は分かりやすい	生 徒	77.7	18.7	3.6	Ⓑ	Ⓑ	情報発信について、再度点検を行う
	学年・学級は、目標や方針を分かりやすく伝えている	保護者	68.0	20.6	11.4	Ⓑ		
	学年や学級の目標や方針を、生徒・保護者に分かりやすく伝えている	教職員	91.7	8.3	0.0	Ⓐ		
④	予習・復習・テスト前に何を勉強するのが分かっている	生 徒	73.5	21.9	4.6	Ⓑ	Ⓑ	情報発信について、再度点検を行う
	学校は年間指導時数の確保に努力している	保護者	76.1	9.3	14.6	Ⓑ		
	年間指導計画に基づいて授業を進めている	教職員	95.8	4.2	0.0	Ⓐ		
⑤	学年通信は役立っている	生 徒	90.5	6.1	3.3	Ⓐ	Ⓐ	
	学校が保護者に出す文書・事務連絡は適切である	保護者	89.9	6.6	3.5	Ⓐ		
	保護者への情報発信に努めている	教職員	91.3	8.7	0.0	Ⓐ		

A：よく当てはまる B：だいたい当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない E：わからない

まとめ

結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で行った研究授業と研究協議では、指導主事の指導助言をいただき、研修を深めることができ、「授業力」の向上に繋がった 全校集会や学年集会、教職員と生徒との日常的な関わり等を通じて、基本的な生活習慣の育成に努めた 今年度も中国上海とスイスオーバーヴィルの中学校との人的交流を行い、国際理解教育の推進に努めた。 担任を中心に、家庭との連携に努め、生徒理解を深めることができた。
次年度の改善点	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学校生活のあらゆる場面を通じて、「心」を育てる教育を推進していきたい 国際交流活動を深化・充実させ、個性を尊重し合える集団の育成に努める 「一人一人を大切にする教育」を行うためには、保護者や地域の協力が不可欠であり、そのためにも保護者・地域との連携を深めていきたい

2 教科指導

目 標	取 組 内 容 (指標)	達成状況	
自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る	①基礎・基本の定着、学力の向上を目ざし、指導法の工夫を図る	A	A
	②学習意欲を喚起するための学習材の開発に努める	A	
	③支援体制の充実を図り、主体的に学習に取り組める工夫を図る	A	
	④夏休みを利用したの補充学習の充実に努める	A	

評価

項目	取組内容 (評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善方法	外部評価
①	授業内容や進度は自分に合っている	生 徒	72.2	20.4	7.5	Ⓑ	学習計画・学習進度の工夫をはかる	
	学校の授業内容や進度が子どもの力にあっている	保護者	64.0	24.3	11.7	Ⓑ		
	生徒の実態を把握し、授業に生かすように努めている	教職員	100	0	0	Ⓐ		
②	少人数授業は分かりやすい	生 徒	62.1	14.1	23.8	Ⓑ	支援体制の充実をはかる	
	学校は、生徒一人一人の個性や能力に応じた指導を工夫している	保護者	53.1	31.7	15.2	Ⓒ		
	少人数指導や習熟度別指導を取り入れるよう努めている	教職員	83.3	16.7	0.0	Ⓐ		
③	先生は授業内容や教え方を工夫している	生 徒	73.6	15.9	10.5	Ⓑ	指導法の工夫に取り組む	
	学校は、生徒が進んで学習するように授業を工夫している	保護者	52.4	27.8	19.8	Ⓒ		
	実験・実習、製作、表現等、多様な授業形態を取り入れている	教職員	83.3	16.7	0.0	Ⓐ		
④	日々の宿題や、夏休み・冬休みの宿題は自分に合っている	生 徒	65.2	28.4	6.4	Ⓑ	学習材の開発の工夫	
	日々の宿題や夏休み・冬休みの宿題は、内容・量的に適切である	保護者	64.6	28.7	6.6	Ⓑ		
	家庭学習の課題を適切に与えている	教職員	91.7	8.3	0.0	Ⓐ		
⑤	先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる	生 徒	64.3	19.6	16.1	Ⓑ	評価基準の改善を検討	
	学校は、子どもの能力や努力を適切・公平に評価している	保護者	67.8	19.1	13.0	Ⓑ		
	適切な評価基準を設定し、評価のあり方の工夫改善に努めている	教職員	95.8	4.2	0.0	Ⓐ		
⑥	通知表の評定は、学習の励みになっている	生 徒	62.8	27.3	9.9	Ⓑ	評価方法についての工夫	
	通知表の評定は、子どもの学力や達成度を適切に評価している	保護者	72.6	14.6	12.8	Ⓑ		
	評定について、生徒や保護者に説明している	教職員	95.7	4.3	0.0	Ⓐ		

A：よく当てはまる B：だいたい当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない E：わからない

まとめ

結果と分析	少人数授業やT.T、習熟度別指導の導入、長期休業中の補充学習の充実など、支援面での充実をはかり、「確かな学力」の育成に努めた。
次年度の改善点	自ら進んで学習に取り組もうとする意欲を喚起できるような学習材についての工夫・検討が必要である。

3 生徒指導・教育相談

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
・基本的な生活習慣を身につけさせ、集団の一員としての自覚を持ち、規律ある行動ができるようにする ・集団の和を大切にす豊かな心を育てる	①望ましい生活集団の確立のため、生徒一人ひとりの生活実態を把握し、計画的・継続的な指導に努める	A	A
	②生徒一人ひとりが集団の一員としての自覚を持ち、信頼によって結ばれた人間関係を育て、充実した学校生活を営ませる	A	
	③リーダーの育成に努める	B+	

評価

項目	取組内容 (評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善方法	外部評価
①	学校は、礼儀や道徳、マナーの大切さを教えてくれる	生 徒	80.3	14.6	5.1	Ⓐ	Ⓐ	
	学校の生徒指導方針に共感できる	保護者	73.9	16.2	9.8	Ⓑ		
	生活指導について、家庭と連携できている	教職員	91.3	8.7	0.0	Ⓐ		
②	学校は困ったことや心配事の相談に気軽に応じてくれる	生 徒	58.1	30.2	11.8	Ⓒ	Ⓒ	教育相談を充実させ、子どもが話しやすい雰囲気を作る
	学校は、子どものことについて適切に相談に応じてくれる	保護者	76.0	12.5	11.5	Ⓑ		
	生徒が気軽に相談できる環境になっている	教職員	69.6	26.1	4.3	Ⓑ		
③	学校は間違った行動を厳しく指導してくれる	生 徒	87.7	9.7	2.6	Ⓐ	Ⓐ	
	学校は子どもの間違った行動を厳しく指導してくれる	保護者	81.4	12.0	6.6	Ⓐ		
	生徒の問題行動に、組織的に対応している	教職員	91.7	8.3	0.0	Ⓐ		
④	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	生 徒	66.8	21.0	12.3	Ⓑ	Ⓑ	教育相談を充実させ、子どもの話しを聴ける体制を作る
	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	保護者	71.5	14.9	13.6	Ⓑ		
	いじめの早期発見や体罰の防止に努めている	教職員	91.7	8.3	0.0	Ⓐ		
⑤	三者懇談は自分の成長に役立っている	生 徒	62.4	24.6	13.0	Ⓑ	Ⓐ	
	個人懇談や進路懇談は、子どもの成長や学校生活を知るのに役立っている	保護者	81.1	12.2	6.6	Ⓐ		
	資料等を整えて三者懇談の充実に努めている	教職員	100	0	0	Ⓐ		
⑥	学校のことについて、保護者によく話をす	生 徒	66.0	28.9*	5.1	Ⓑ	Ⓑ	保護者との連携を深める
	学校のことについて、子どもからよく話を聞く	保護者	75.8	21.8	2.4	Ⓑ		
	生徒とともに過ごす時間を設けるよう努めている	教職員	79.2	20.8	0.0	Ⓑ		

A：よく当てはまる B：だいたい当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない E：わからない

まとめ

結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに対し、計画的・継続的な指導を行うなかで、正しい人間関係を基にした、充実した学校生活ができるようになってきている。 ・リーダーの育成が十分にできていない。
次年度の改善点	信頼されるリーダーの育成に努める。協力し、助け合える集団を目指し、よりよい信頼関係によって結ばれた人間関係を育てる。

4 進路指導

目 標	取 組 内 容 (指標)	達成状況	
3年間の中学校生活を通して、自己を見つめ、自分自身の生き方を考えて、主体的に進路選択をおこなっていく。	○1年：「働くこと」の意義を考え、自分の生き方について考える	B+	A
	○2年：自己について考え、社会の中でのばしていく生き方について考える	A	
	○3年：自分自身を考え、社会の中で自己を生かす進路選択をおこなう	A	

評価

項目	取組内容 (評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善方法	外部評価
①	授業や学級会で、将来の進路や職業などについて考えたことがある	生 徒	55.5	33.8	10.7	◎	年間計画の点検と情報発信	
	学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている	保護者	54.4	15.7	29.9	◎		
	計画的に進路指導に取り組んでいる	教職員	87.0	13.0	0.0	◎		
②	学校は、将来の進路や職業などについて必要な情報を与えてくれる	生 徒	55.9	29.5	14.6	◎	情報提供についての点検	
	学校は進路に関して、保護者への連絡や懇談など、適切な情報提供を行っている	保護者	65.3	13.3	21.3	◎		
	生徒・保護者に、進路に関する適切な情報が提供できる環境になっている	教職員	100	0	0	◎		
③	将来の進路や職業などについて先生と相談している	生 徒	24.4	57.3	18.3	◎	教育相談の充実	
	生徒の個性や能力に応じた進路指導がなされている	保護者	55.2	14.7	30.1	◎		
	進路に関する生徒・保護者の願いを把握するよう努めている	教職員	100	0	0	◎		

A：よく当てはまる B：だいたい当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない E：わからない

まとめ

結果と分析	3年間を通して、計画的に進路学習を実施しているため、学年によっては全く何も学習していないと生徒が感じていることがわかる
次年度の改善点	情報発信面で点検すべき点があるため、今後取り組む必要がある

5 特別活動

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
自主的に活動でき、さらに協力しながら規律ある行動ができる集団の育成に努める。	①学年行事、学級活動に全員で取り組み、共に支えあうような学級集団の育成に努める	A	A
	②部活動に生徒が主体的に活動できるよう推進める	A	
	③生徒会活動・委員会活動を活発にし、生徒の自主性を育て、生徒会組織と学級との連携を密にする	B+	

評価

項目	取組内容 (評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善方法	外部評価
①	体育大会、文化発表会、宿泊行事などの学校行事は楽しい	生 徒	87.7	11.3	1.0	Ⓐ	Ⓐ	
	子どもは、体育大会や文化発表会、宿泊行事などの学校行事に積極的に参加している	保護者	91.2	6.4	2.4	Ⓐ		
	学校行事の中で、生徒に成就感を持たせるように努めている	教職員	100	0	0	Ⓐ		
②	学校行事の種類や回数、内容は適切である	生 徒	73.1	16.9	10.0	Ⓑ	Ⓐ	
	学校行事の種類や回数、内容は適切である	保護者	88.6	6.1	5.3	Ⓐ		
	行事終了後の評価・反省が次回に生かされている	教職員	95.8	4.2	0.0	Ⓐ		
③	部活動や委員会活動は楽しい	生 徒	78.2	13.1	8.7	Ⓑ	Ⓐ	
	子どもは、部活動や委員会活動で生き生きと活動している	保護者	81.4	12.8	5.9	Ⓐ		
	部活動や委員会活動で、生徒の自主性を伸ばすように努めている	教職員	83.3	16.7	0.0	Ⓐ		

A : よく当てはまる B : だいたい当てはまる C : あまり当てはまらない D : 全く当てはまらない E : わからない

まとめ

結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等では、各学年で特色を出し、事前の取り組みが活発に行われた。教師の指導のもとで、生徒が積極的に活躍する場面が多くとれるよう努めた。 部活動では各顧問の指導のもと、各部長をリーダーとして自主的な活動ができるよう努めたが、まだ不十分である。 生徒議会における議会運営を活性化するために、反省会などを持ち、リーダーの育成に努めた。
次年度の改善点	<ul style="list-style-type: none"> リーダーの育成をさらにすすめる必要がある。 他人の痛みや思いをわかり合える集団作りを、さらにすすめていく。

6 道徳

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
人間尊重の自覚を高め、思いやる気持ちを持ち、主体的に行動できる生徒の育成に努める	①道徳の時間と各教科・特別活動・総合的な学習の時間及びその他の活動との関連を図り、生徒の内面に根ざした道徳性を育てる指導の充実をめざす	A	B+
	②より効果的で多様な指導法、指導内容、教材資料についての研究を進める	B+	

評価

項目	取組内容 (評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善方法	外部評価
①	相手を思いやる心や、強い意志を持てるよう努力している	生 徒	76.7	16.9	6.4	Ⓑ		
	いろいろな考え方があり、互いに尊重できるようになりたい	生 徒	81.3	14.4	4.4	Ⓐ		
	生徒が共感できる教材の開発・収集を進めている	教職員	87.5	12.5	0.0	Ⓐ		
	学年ごとの年間指導計画に基づいて指導内容を検討・工夫している	教職員	91.7	8.3	0.0	Ⓐ		

A : よく当てはまる B : だいたい当てはまる C : あまり当てはまらない D : 全く当てはまらない E : わからない

まとめ

結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活全般に渡り、多くの機会に生徒の内面を育てる指導がなされていた。 道徳の時間に計画的に授業を行うことができるようになってきた。
次年度の改善点	<ul style="list-style-type: none"> 学年によっては、特に前期に道徳の時間の確保が難しく、いつもぎりぎりになってしまう点 引き続き子ども達の内面を育てる機会を逃さず指導を継続していくこと

7 総合的な学習

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
「確かな学力」を身につけさせ、社会の変化に対応できる力を育む	① 自ら課題を見つけ、学び、考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる	B+	B

評価

項目	取組内容 (評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善方法	外部評価
	課題意識を持って学び、考えることができた	生 徒	74.2	19.1	6.6	Ⓑ	学習内容の工夫	
	学年に応じた内容を計画的に進め、工夫している	教職員	91.7	8.3	0.0	Ⓐ		

A：よく当てはまる B：だいたい当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない E：わからない

まとめ

結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は1学期に情報収集の手段としての図書館の利用方法や新聞の読み方についての学習をし、2学期は大阪の自然や環境を理解させるために、自然史博物館や植物園を利用した学習をした。3学期はコミュニケーション・発表力をつけさせる学習を行った。 ・2年生はI期に職場体験を実施した。II期からは「地域学習・大阪」「国際交流学習・スイス」「国際交流学習・上海」の中から各自がテーマを設定し、情報の収集を行い、レポートにしてまとめ、各自が冊子を作成した。 ・3年生は、卒業研究として、各自が設定したテーマに沿って資料を収集し、研究の概略と今後の課題を中間発表した。その後、最終的に各自がまとめ冊子を作成した。
次年度の改善点	今後の各学年の学習内容について考えていかなければならない。

8 健康教育

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
基本的な生活習慣の確立と心身の健康の保持増進につとめる	①健康に対する意識を高め、自律的な生活態度を養う	A	B+
	②環境に対する意識を高め、自らすすんで整備美化する態度を養う	B+	

評価

項目	取組内容 (評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善方法	外部評価
	健康に対する意識を持ち、日常生活を送っている	生 徒	74.1	21.5	4.4	Ⓑ	情報発信の方法を工夫する	
	学校は、心身の健康に関する教育に取り組んでいる	保護者	77.1	8.8	14.1	Ⓑ		
	健康に対する意識を持てるよう、毎日の生活の中で機会をとらえ、指導している	教職員	95.8	4.2	0.0	Ⓐ		
	環境に対する意識を持ち、日常生活を送っている	生 徒	71.4	22.5	6.1	Ⓑ		
	学校は、環境の安全や美化に関する教育に取り組んでいる	保護者	81.9	4.8	13.3	Ⓐ		
	環境に対する意識を持てるよう、毎日の生活の中で機会をとらえ、指導している	教職員	91.7	8.3	0.0	Ⓐ		

A : よく当てはまる B : だいたい当てはまる C : あまり当てはまらない D : 全く当てはまらない E : わからない

まとめ

結果と分析	保護者や教職員の評価に比べて、生徒の評価では「健康面」「環境面」とともに「C : あまり当てはまらない」「D : 全く当てはまらない」と回答した割合が高く21~22%であった。この約5分の1の生徒が、もっと身近なこととして「健康」や「環境」をとらえ、日々実践しているという実感が得られるような工夫が必要である。
次年度の改善点	日常生活すべてが「健康」や「環境」に直結していることを理解させるために、よりわかりやすく繰り返して伝えること、指導を継続することが大切である。

9 特別支援教育

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
特別なニーズのある子どもたちが、まわりの子どもたちと共に学び、共に生活することを通じての地域社会で自立することを目指した教育を推進する	①特別なニーズのある生徒の自己決定権を尊重し、個々の状況に応じて、自立に必要な基礎的能力を養うため個別的指導を実施する	A	A
	②統合教育を推進し、特別なニーズのある生徒に対しての通常の学級での指導を充実する	A	
	③人権教育としての「障害理解教育」を推進すると共に種々の行事や学級活動を通じてインクルーシブな集団の育成に努める	A	
	④自立活動の指導の充実に努め、個々の課題に対する指導を計画的に実施する	A	
	⑤職員研修やPTA活動を通じて、ICFなどの新しい障害観の啓発を進める	B+	

評価

項目	取組内容 (評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善方法	外部評価
①	支援が必要な人たちのことについて、学校で学んで良かったと思いますか	生 徒	71.7	13.9	14.4	Ⓑ	年度初めに支援学級の紹介をする。また、障害者週間を活用して道徳・学活での指導を推進する。	
	学校では子どもに対し、「障害理解」を進める取り組みを行っている	教職員	87.5	12.5	0.0	Ⓐ		
②	様々な障害について学ぶことは、これからの自分に役立つことだと思いますか	生 徒	73.8	13.4	12.9	Ⓑ	車椅子の介助、アイマスクなどを使用した体験学習を導入するなど、従来の講義中心の「障害理解」教育の方法を工夫する。	
	支援が必要な生徒のニーズに応じる教育を行っている	教職員	91.7	8.3	0.0	Ⓐ		

A：よく当てはまる B：だいたい当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない E：わからない

まとめ

結果と分析	<p>①今年度よりICFに基づいて「個別の教育支援計画」を作成し、保護者に開示、同意を得た後、「個別の指導計画」を作成し指導に取り組んだ。2学期懇談において指導の進捗状況を保護者に示し、3学期終了時に1年間の評価を示すことができた。</p> <p>②入り込みによる指導を増やし、1年、3年在籍生徒全員の全授業時間の50%以上を通常の学級で過ごすという本校の目標を達成することができた。</p> <p>③日常的な学級、学年での指導において、「障害理解」を進める指導を実施している。また、1年生の人権学習において、本校卒業生をゲストティーチャーとして招き、学習を進めた。</p> <p>④自立活動の指導においては、教科指導との関連を考慮して、より効果のある方法を研究し、実践することができた。</p> <p>⑤職員研修において、本校生徒のICFと支援計画を協議することを通じて、障害についての理解を深めることができた。しかし、今年度は保護者向けの研修を行うことができなかった。</p>
次年度の改善点	<p>①今年度はICF導入の初年度ということもあり、活用が充分ではなかった。来年度は春季休業中から取り組みを始める。</p> <p>②日常の指導場面において、一般の生徒の「障害理解」を推進する指導を進める。</p> <p>③支援学級の意義付けの指導など、学級をベースとした「障害理解」について検討を始める。</p> <p>④支援学校や大阪市教育センターの研修会を活用し、指導技法の向上を図る。</p> <p>⑤引き続き、様々な機会を活用して校区への情報発信に努める。</p>